

帰国子女・バイリンガル教育（英語補習校）プログラム

— 第6期春季講座・(10才・午後クラス)の内容紹介(2) —

ABCD 学院 学院長 千葉紘一

日本で最初の帰国子女のための英語補習校であるABCD学院での教育について報告します。前回に続き、実際に行われた小学校中学年対象の帰国子女プログラムを、具体的に紹介します。

3.3 小学生クラスの講座内容と特徴

以下に、本講座の特色たる所を中心に、今学期実施した内容をチェックリスト風に、述べさせていただきます。ただし、講師により授業の進め方について、若干変更があります。

* カリキュラムの特徴

- 1) 科目を中心とした中身のある教材を使用して、単なる英会話でなく、内容のある授業を行なうこととしています。
- 2) 自分の考えや意見を述べる機会が多いので、日本の学校では学べない自己表現力を鍛えられます。
- 3) 帰国子女の多くが苦手な文法などにも、文章を書かせつつ、覚えていただきます。
- 4) 英会話だけでなく、リーディングやライティングもしっかりカバーします。
- 5) プレゼンテーションを行います。

以下に、各項目についてコメントを記したいと思います。

1) 中身のある授業について

今回は、テーマを社会科学（アメリカ史・独立戦争時代）として授業が進んでいきました。通常の担任である Craig 先生に加え、アメリカ史のトピックを扱う際には Corey 先生にも授業を担当してもらいました。講師が代わることでより多角的な説明を生徒に提供できたと思います。クラスメートのプレゼンテーションについても準備段階やリハーサルを通じて知識を深める機会があり、その点でも、この分野での視野を広げるような経験になったのではないのでしょうか。

2) 自己表現力を鍛える。

授業ごとに先生が用意してきた教材（主にアメリカ史についての現地テキスト）を使用し、生徒とディスカッションを行ない、生徒自身の意見を発表し交換し合いました。

3) 英文法やライティング授業を行なう。

毎週日記の宿題を出し、次週に先生が英文法をチェックしました。また今回は、プレゼンの原稿作りの段階で、できた原稿をレビューしてもらい、同時にプレゼンの指導を行ないました。

4) リーディングやライティング授業を行なう。

上記(2)の教材を使用し、リーディングの授業を行いました。新出単語、難易度の高い単語に関してはその都度復

習をしながら進めました。同時に読解力を付ける為の問題にもチャレンジしました。またクリエイティブライティングの一環として適時先生から課題が出されました。(米国史テキスト：American Will Be および Americans など)

5) プレゼンテーションを行う

前学期と同じく、中間・期末と2度のプレゼンテーションを行いました。最終回は、共通テーマである社会科学（アメリカ史）に関連するトピックを各自が発表しました。準備段階も含め、各自トピックに関しての知識と関心を深められたことと思います。

■ 共通テーマ：社会科学（アメリカ史）

この小学生にはアメリカの独立戦争についての知識は乏しいので、この時代の人物を中心として調べ、プレゼンテーションしてもらいました。

- * Rくん アレキサンダー・ハミルトン
- * Hくん トーマス・ジェファソン
- * Sくん ポール・リビア
- * Kさん ベンジャミン・フランクリン

プレゼンテーション授業について再三述べていますが、生徒にとって、自分で調べ、原稿を作り、これを人に理解させるよう表現するように論理的表現方法を学びます。そして、更に、プレゼンの方法も学ばねばなりません。このプロセスが重要です。発表は5分以下で終わってしましますが、生徒の頭に残ること、プレゼンの経験が自信に繋がることと思います。

カルティカルシンキングを行うため、ディスカッションを行わせると申しあげました。

具体的には、この学期は独立戦争を取り上げ、生徒のプレゼンテーションの後、時間を取り、ディスカッションを行いました。このディスカッションを通じて「何故戦争が起こったか」、また、「なぜ戦争を必要としたか、国を作るとは何か？」を考えました。

* 共通ディスカッション・テーマ：

- (1) 独立戦争当時、アメリカ人はジェファソンが言ったように「全ての人は平等であると信じていたか？」
- (2) 新しい国を築く為、何を必要としたか？：武器、英雄、愛国心？



4. まとめ

通常の学校に比べ、授業時間の絶対数が少ない割に、このプレゼンテーションの時間を多くしているのはセルフスタディを重要視する為です。知識を詰め込むよりも、自分で考え、解決する能力を助成する為です。学校で得られる知識は時間に比例するとすれば、限られてしまいます。むしろ、自分で考え、解決できる能力を助成するほうが如何に世に出て有効であるかお分かりいただけます。これは私自身が、エンジニアとして働いていた頃、いやと言うほど身にしみて感じたものです。そして、新しい開発物を幾度も手掛け、その度に自分で外国の文献をレビューしたりして勉強してきたものです。大切なことは自分で解決することを心掛けることです。自分で解決するということは何でも自分で行うことを意味しません。色々、他人に聞くこともあり、文献を調べ参考にすることもあります。何を見れば良いか、また、それが正しいと判断できることが大切です。

プレゼンテーションでは何をテーマに選ぶかが大切ですが、背伸びすればプレゼンテーションは難しくなり、易し過ぎればプレゼンテーションは上手くとも、本人には、食い足りない思いをすることとなります。この意味で、学期で2回プレゼンテーションがあれば、与えられたテーマと自身で選んだもので、半々に実施することがベストと考えます。

また、最後にプレゼンテーションのテーマについて皆で、質疑応答やディスカッションを行ないました。今回は、生徒から活発に質問が出され、生徒は良く答えていました。本テーマの社会科学（アメリカ史）は奥が深く、幅広くて大きな、そしてやり方では、かなり難しいテーマですが、生徒皆さんはそれなりにそしゃくし、興味を持たれ、良く調べて発表していました。さらに活発に質疑を行っていたことは喜ばしいことと思っています。プレゼンの結果はすばらしく、大人顔負けです。あまり得意でなかった人も今後これをキッカケに興味を抱かれることを期待したいです。

さらに、この学期は特別に、プレゼンの後、このスコアの上位の2名を選び、早稲田大学で留学希望の生徒向けに特別授業を行っている松本先生の授業で、プレゼンのデモを行いました。その大学生から刺激になったと感謝されましたことを最後に付け加え終わりとします。



早稲田大学：大隈像前にて

Class Report (例)

各クラスは、担任の先生が教え、アシスタントがサポート・記録を担当します。毎クラス終了後、この例のようなClass Reportを作成し、ご両親にお渡します。また、学期末には、授業の一部やプレゼンテーションなどを記録したビデオも配布します。

| RETURNÉES PROGRAM CLASS REPORT | | | |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|------------|--------------|
| Date: | 06/06/24 | Teacher: | Corey |
| Student: | H.Y. | Assistant: | Yuri Shioiri |
| 1時間目 | | | |
| アメリカ史 先生の話と、生徒の質問や考えを交え、以下のことについて学びました。 ・ 初期のアメリカの国旗について ・ 植民地と国の違い ・ 18世紀の英国とフランスの関係 ・ アメリカ独立戦争以前の英国と入植者の関係 入植者の子孫が自分の国籍をどのように認識していくか、英国の法律がアメリカでも適応されることについて入植者はどのように考えていたか、アメリカで入植者から徴収された税金が英国で使われていたことについて学びました。 | | | |
| 2時間目 | | | |
| アメリカ史続き ・ どのようにしてアメリカ独立戦争が始まったか "Americans take up arms for independence"という、18世紀の入植者が書いた日記という設定で書かれたテキストを読みました。途中、分からない言葉と文の意味を確認し、生徒の意見を交えながら、読み進めました。以下の言葉を新しく学びました: staple, debt, generalization, conflict, profits, representative, merchant. また、リーディングの内容を理解するのが難しかったので、他の事でシチュエーションが似ている事を輸入として先生が説明をし、ディスカッションをしました。輸入として挙げられたことは、テロリスト、W杯サッカー、第2次世界大戦中の日本政府の満州やブラジルでの動きなどです。 | | | |
| ホームワーク プレゼンテーションのための下調べと原稿 | | | |
| 講師からのコメント Today we took another shot at the American Revolution. I tried to present it with analogies that they could understand and I think it was productive. | | | |
| アシスタントからのコメント 先生の話に興味を持って聞いていて、途中で話の内容を要約して述べ確認したり、質問したり、自分の考えを話したりと、とても積極的に授業に参加していました。その際、H君が知っている歴史上の事実を交えたり、何故そう思うのかということもきちんと理由付けて話していて、説得力のある発言をしていました。 H君は、学期末プレゼンテーションでThomas Jeffersonについて発表する予定です。 | | | |

千葉 紘一

ちば こういち

ABCD学院 学院長

ABCD 学院

〒151-0053 東京都渋谷区代々木 2-26-12

TEL:03-5365-1341 FAX:03-5365-1340

http://www.abcdco.jp/



帰国子女の10オウラスの詳細な紹介の2回目です。

そのクラスの成果を、この文章でも紹介されていますが、早稲田大学の私のクラスでプレゼンをしてもらいました。受講生の半数が短期留学志望ですが、「こんなプレゼンは出来ませんよ」と、大学生が小学生のパフォーマンスにショックを感じていました。

英語補習校の成果を実感させていただきました。感謝!